

青労発基 1026 第5号
平成30年10月26日

一般社団法人青森県建設業協会長 殿

青森労働局長

平成30年度冬期労働災害防止運動の実施について（要請）

労働行政の推進につきましては、平素から格段の御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当局管内においては、例年、冬期特有の気象条件（降雪、低温、強い季節風等）の影響を受けた労働災害（以下「冬期労働災害」という。）が多く発生しており、平成29年度冬期（平成29年11月～平成30年3月）における冬期労働災害の死傷者数（休業4日以上）は232人で、前年度と比較して15件（6.9%）増加しています。また、同期間中の労働災害発生件数は、全体の48.5%を占め、年間の労働災害全体の件数を底上げしている状況にあります。

本年度、当局では、労働災害の防止のための対策を取りまとめた5か年計画（第13次労働災害防止計画）を策定し、労働災害発生件数を今後5年で5%以上減少させることを目的として掲げ各種取組を実施しているところですが、同計画の目標を達成するためには、冬期労働災害を減少させることが重要です。このため、当局では労働災害の多発が特に危惧される平成30年11月から平成31年3月までの期間における冬期労働災害の防止を目的として、別添のとおり冬期労働災害の8割を占めている転倒災害、死亡を含む重篤な災害が発生につながりやすい墜落災害及び交通労働災害の防止を重点目標に掲げた「平成30年度冬期労働災害防止運動実施要綱」を策定し、本運動を実施することといたしました。

つきましては、別添のとおりリーフレット等を送付しますので、本運動の趣旨を御理解の上、会員事業場に対する周知及び各事業場における取組への指導援助について御協力いただきますようお願いいたします。

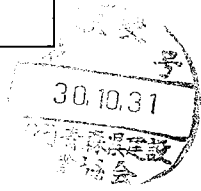
併せて、広報誌やホームページ等を活用した本運動の周知につきましても、御協力いただきますようお願いいたします。

担当

青森労働局労働基準部健康安全課

〒030-8558 青森市新町2丁目4-25 青森合同庁舎2階

☎ 017-734-4113



平成 30 年度冬期労働災害防止運動実施要綱

青森労働局

1 趣旨

積雪寒冷地である本県は、冬期における降雪、低温、強い季節風などの冬期特有の気象条件の影響を受け、積雪・凍結・寒冷に起因した転倒・墜落災害及び車両等のスリップ事故による労働災害（以下「冬期労働災害」という。）が多発している。

当局管内の平成 29 年度冬期（平成 29 年 11 月～平成 30 年 3 月）における冬期労働災害の死傷者数（休業 4 日以上）は、232 人で前年度と比較して 15 件（6.9%）増加している。また、同期間中の労働災害発生件数は、全体の 48.5% を占め、年間の労働災害全体の件数を底上げしている状況にある。

当局において第 13 次労働災害防止計画の目標を達成させるためには、冬期労働災害を減少させることが重要である。

このため、当局では、安全衛生関係団体、事業者団体等と連携し、事業場における自主的な安全衛生管理活動の一層の推進を図り、冬期労働災害の防止を目指して「冬期労働災害防止運動」を実施する。

特に、冬期労働災害の 81.9% を占めている転倒災害、死亡を含む重篤な災害につながりやすい墜落災害及び交通労働災害の防止を重点目標に掲げて運動を展開する。

2 重点目標

転倒災害、墜落災害及び交通労働災害の防止

3 実施期間

平成 30 年 11 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの 5 か月間とする。

なお、平成 30 年 12 月 1 日から平成 31 年 2 月 28 日までを転倒災害防止重点実施期間とする。

4 主唱者

青森労働局、各労働基準監督署

5 実施者

各事業場とする。

なお、安全衛生関係団体、事業者団体等においては、これら事業場における活動を支援するものとする。

6 主唱者の実施事項

- (1) 冬期労働災害防止に関する広報資料等の作成及び配布を行う。
- (2) 関係行政機関、各種団体等に対して協力要請を行う。
- (3) 安全衛生関係団体、事業者団体等の実施事項について指導援助する。
- (4) 事業場に対する各種指導時において、冬期労働災害防止対策の実施について指導する。
- (5) 事業場の実施事項について指導援助する。
- (6) 広く県民に本運動の周知を行う。

7 各事業場における重点実施事項

各事業場は、期間中に 8（1）に掲げる取組を行うこととするが、特に重点実施期間においては、8（1）イに掲げる事項を、重点的に取り組むこととする。

8 実施者の実施事項

(1) 事業場

ア 安全衛生活動の活性化

- (ア) 本運動の趣旨及び実施事項の周知及び、労使による自主的な安全衛生活動の推進。
- (イ) 安全衛生委員会等における冬期労働災害防止対策の審議及び対策の検討。
- (ウ) 経営首脳者、安全スタッフ等による職場の安全総点検の実施及び確実な改善。
- (エ) 労働者に対しての冬期労働災害防止対策に関する安全教育の実施。

イ 積雪・凍結による転倒災害の防止

(ア) 作業環境管理

- a 通路、作業場所及び駐車場は、囲い、除排雪・融雪設備の設置等による、積雪・凍結の防止措置。
- b 屋外の階段、傾斜した箇所、除雪直後の路面、凍結した箇所等滑りやすい箇所に、滑り止めの設置等の措置。

(イ) 作業管理

- a 滑りにくく、安定した靴の着用。
- b 小さな歩幅で、足の裏全体を着地するようゆっくり歩行。
- c 服やズボンのポケットに手を入れたままの歩行及び両手に物を持っての歩行の禁止。

(ウ) 健康管理

日頃から運動に心がけ、健康の保持増進を図る。

(エ) 労働者への教育等

- a 過去の冬期労働災害の発生場所及び滑りやすい場所又は転倒しそうになった場所の情報収集を図り、当該場所の周知及び重点的に除雪する等の対策。(ヒヤリ・ハット事例、構内安全マップ等の作成)
- b 上記作業環境管理、作業管理及び健康管理に係る教育の実施。

(オ) リスクアセスメントの実施

ヒヤリ・ハット事例及び構内安全マップを活用し、転倒災害の危険性がある箇所での作業(通行を含む)におけるリスクアセスメントの実施。

ウ 雪下ろし、除排雪による災害の防止

(ア) 滑りにくい靴、ヘルメット等の着用。

(イ) 屋根等高所での作業に当たっては、次の対策の実施。

- a 事前に作業場所の状況確認を行い、開口部等の有無の確認。
- b 安全帯を使用するための設備の設置及び安全帯の使用。

(ウ) 機械等での作業に当たっては、次の対策の実施。

- a 事前に作業場所の状況確認を行い、障害物及び転落の危険の有無の確認。
- b 路肩等、転落の危険のある場所への目印の設置又は誘導員の配置。
- c 機械に氷等が詰まる等の不具合の際は、機械の停止措置の徹底。

(エ) 雪庇は、可能な限り地上の安全な場所で除去。

エ 内燃機関・練炭等による一酸化炭素中毒の予防

(ア) 原則として練炭の使用を禁止。

(イ) 一酸化炭素中毒の危険性・有害性及び注意事項の周知。

(ウ) 火気使用場所の十分な換気。

(エ) 一酸化炭素中毒の危険のある場所への立入禁止措置。

(オ) 一酸化炭素中毒の危険のある場所に立ち入る場合は、一酸化炭素濃度・酸素濃度の測定及

び換気の実施、呼吸用保護具の着用の徹底。

(カ) 救助方法を定め、関係労働者に対し教育を実施。

オ 交通労働災害の防止（車両等のスリップ事故の防止等）

(ア) 速度は控えめにし、長めの車間距離。

(イ) 急ハンドル及び急ブレーキの禁止。

(ウ) 橋の上、トンネルの出入口及び日陰部分での減速。

(エ) より安全な経路への変更等を含め、送迎バス等の運行に関する適正化を図る及び「交通労働災害防止のためのガイドライン」に掲げる事項の実施。

(オ) 天候及び路面状況を考慮に入れた時間的に余裕のある運行計画の策定。

カ 作業時の保温・体操の実施

(ア) 作業場内の気温の適正化を図る。

(イ) 防寒衣等の着用による保温。

(ウ) 作業開始前の体操等の実施による、筋肉硬化による動作の鈍化、腰痛等の予防措置。

キ 山岳部での作業における災害防止（対象業種：建設業及び林業）

(ア) 吹雪・濃霧による遭難災害の防止

a 事前に移動経路等を定め、等間隔の目印の設置及び通路の整備。

b 吹雪・濃霧の際は作業の中止及び屋内への避難措置、やむを得ず下山する場合は単独行動を回避。

(イ) 雪崩への遭遇の防止

a 雪崩が発生するおそれのある場所に作業小屋及び宿舎等の設置の禁止。

b 雪崩災害防止に関する管理体制を明確にし、作業中止・退避等についての責任者を選任。

c 現場における気象観測の記録及び最寄りの気象観測機関から情報収集に努め、未然に対応。

d 大雪又は雪崩注意報、警報が出された場合は、直ちに作業を中止し、安全な場所に退避。

e 下山する場合は、単独行動を避け、可能な限り雪崩が発生するおそれのない箇所を通行。

f スコップ、ゾンデ棒及び雪崩ビーコンの携行。（救助、捜索用の器具）

(ウ) 積雪・強風による作業小屋及び休憩所等の倒壊・崩壊を防止するため、雪下ろしの徹底、また、必要に応じ、柱・屋根等の補強措置。

ク 凍結のゆるみによる土砂崩壊災害等の防止（対象業種：建設業及び林業）

(ア) 地山掘削作業を行う場合は、土止め支保工の設置。

(イ) 地肌が露出している箇所は、点検の実施及び地山から離れた箇所の通行、また、必要に応じ見張員を配置。

(ウ) 融雪・鉄砲水による災害を防止するため、作業箇所の周辺、上流の積雪等の状態を調査し、除排雪の必要性を検討、また、作業中止等の適切な措置の実施。

(2) 安全衛生関係団体・事業者団体等

ア 会員事業場に対し、本運動の周知啓発を行う。

イ 会員事業場の経営首脳者に対し、自ら率先して労働災害防止活動に努めるよう要請する。

ウ 会員事業場の実施事項について、必要な指導援助を行う。

エ 会員相互による安全パトロール、安全講習会等を実施する。

オ 各種講習や教育の場を活用し、本運動における労働者の役割等の周知を図る。

冬期労働災害防止のためのチェックリスト

あなたの事業場では、この冬の労働災害防止対策は万全ですか？

この自主点検は、冬期労働災害防止のための主要な項目を挙げたものです。各事業場においては、厳しい冬を迎えるに当たり、施設や安全衛生活動等をもう一度見直し、改善すべきところは直ちに対策を講じましょう。

1 安全衛生活動

- ・安全衛生委員会等において、冬期労働災害防止対策について審議し、対策を検討、実施していますか はい いいえ
- ・経営首脳、安全スタッフ等による職場の安全総点検を実施していますか
- ・労働者に冬期労働災害防止対策に関する安全教育を実施していますか

2 転倒災害の防止

- ・通路、作業場所の除排雪は十分ですか はい いいえ
- ・転倒災害が発生している場所、転倒災害が発生しやすい場所を周知していますか ..
- ・駐車場等の除雪後、路面を滑りにくい状態にしていますか
- ・屋外の階段や傾斜した箇所に滑り止め等を設置していますか
- ・労働者から転倒しそうになった場所を聴き取り、構内安全マップ等を作成していますか ..
- ・労働者は滑りにくく、安定した靴を着用していますか
- ・労働者は小さな歩幅で、足の裏全体を着地するように歩いていますか
- ・労働者は日頃から運動に心がけ、健康の保持増進に努めていますか

3 屋根の雪下ろし作業による墜落防止

- ・滑りにくい靴、ヘルメット、安全帯を着用していますか はい いいえ
- ・安全帯を使用できる設備はありますか
- ・事前に作業場所の確認を行い、開口部等の把握を行っていますか
- ・地上に監視人を置く等、複数人で作業を行っていますか

4 除雪作業による災害防止

- ・除雪機の取扱者に安全な使用方法を教育していますか はい いいえ
(機械の種類によって、資格が必要な場合があります)
- ・機械のトラブル（氷が詰まるなど）時に機械の完全停止を徹底していますか
- ・路肩に近接して作業する際、誘導員の配置や目印を表示していますか
- ・人力での除雪を行うときは、無理のない姿勢又は体力以上のものを持ち上げない
ようにしていますか

5 一酸化炭素中毒の予防

- ・暖房用としての練炭の使用を禁止していますか はい いいえ
- ・火気使用場所の換気は十分ですか
- ・一酸化炭素中毒の危険のある場所を立入禁止としていますか

6 交通労働災害防止

- ・早めのタイヤ交換、早めの点灯運転を実施していますか はい いいえ
- ・時間に余裕を持った車両の運行計画を立てていますか
- ・当日の気象状況及び路面状況を把握し、周知していますか

7 作業時の保温・体操の実施


- ・ミーティングの際、防寒衣の着用及び着用状況を確認していますか はい いいえ
- ・ラジオ体操など準備運動を実施していますか
- ・労働者が着用している防寒衣の袖口は締まっていますか

※ 「はい」の項目はいくつありましたか？ 「いいえ」の項目は早急に改善しましょう！

冬期特有の労働災害を 防止しましょう！

冬期間において、降雪、低温及び強い季節風などの冬期特有の気象条件の影響により、積雪・凍結・寒冷による転倒災害、屋根除雪中の墜落災害などが多く発生しています。

特に、冬期労働災害のうち「転倒」は全体の82%（平成29年度）を占め、けがの多くは骨折など重傷となっています。



ポケット
に手を
入れな!!

ゆっくり
歩こう!!

平成30年度

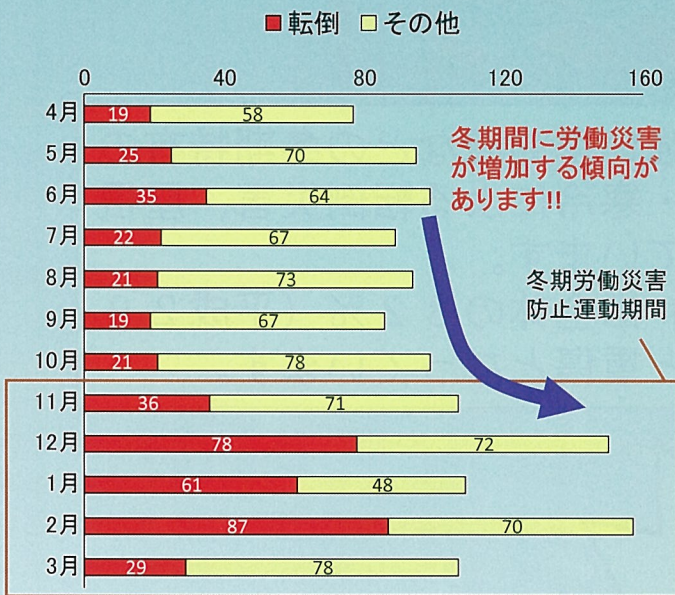
『冬期労働災害防止運動』展開中

運動期間：平成30年11月1日から平成31年3月31日まで

（転倒災害防止重点実施期間：平成30年12月1日から平成31年2月28日まで）

重点目標：転倒災害、墜落災害及び交通労働災害の防止

月別労働災害発生状況 (平成29年度)



資料出所: 労働者死傷病報告(休業4日以上)

**駐車場や事業場構内(屋外)での
転倒災害が多発しています!**

転倒災害の防止対策

教育

冬期における転倒災害の防止対策、転倒しやすい場所等を労働者に教育、周知しましょう。

除雪

使用する機械、用具を考慮した作業計画を立てるとともに、準備運動を実施し無理のない姿勢で行いましょう。

服装

防寒対策と合わせて冬道に適応した靴底の靴を着用しましょう。

歩行

積雪・凍結路面は、小さな歩幅で足の裏全体から着地するように歩きましょう。



墜落災害の防止対策

- 滑りにくい靴、ヘルメットなどを着用しましょう。
- 屋根などの高所で作業する場合は、事前に作業場所を確認し、安全帯の使用など墜落防止対策を講じましょう。
- 軒先からせり出している雪や氷柱の除去は、できるだけ高所での作業を避け、雪などが落下するおそれがない安全な地上で行いましょう。

交通労働災害の防止対策

- 時間に十分な余裕を持った移動計画を立てましょう。
- 控えめな速度、長めな車間距離など、路面状況に合わせた安全運転を心掛けましょう。
- やむを得ない場合を除き、急ハンドル、急ブレーキはやめましょう。
- 上記の内容について事前に労働者に教育を行いましょう。

墜落災害及び交通労働災害では、死亡をはじめ重篤な災害につながる傾向にあります!

このリーフレットのほか、冬期間における労働災害防止に係る資料を青森労働局ウェブサイトに掲載しています。

青森労働局

検索

※「冬期労働災害」とは、冬期特有の気象条件の影響を受けた災害を表します。

(H30.11)